情報技術革新の進む今日、次世代を担う農家の生き方

● 小松　庸一さん

（早期警戒システムモニター、宮城県岩出山町の専業農家）

いままでの農家の農業に関する情報源は、地域の古老、篤農家、地域農業改良普及センターや農協などが担ってきた。現在は農業試験場、大学、気象庁、農業関係団体のインターネットによる連携により、各地域の作物試験や品種改良情報、天候の変化、農産物の市場価格などもリアルタイムで情報が飛び交っている。これからの農家と専門知識を持つ方などの研究機関とが直接対話できる環境が整ってきている。農家もこれまでの経験と地域の環境を分析することができないと有用な情報も生かすことができない。有用な情報を選択し、自分の貴重な経験と照らし合わせて判断できることが農業経営の充実にもつながる。

● 太田　俊治さん

（早期警戒システムモニター、宮城県石巻市の兼業農家）

農業経営はますます専門化が進み、多くのものを作り育ててきた時代から単一品種を大規模に作付けするようになりました。また一方では作付面積の小規模化のため兼業化が進んでいます。我が家の経営は水稲面積が小規模なため後者の経営を選択しました。米を商品としてとらえ付加価値をつけ独自ブランドを確立するため、品種の改良育成に取り組んでいます。インターネットを通して多くの貴重な情報が入手できるのが魅力です。壮大な挑戦ですが、先人が当時の冷害を克服し農家経済を回復させるために取り組んだ労苦にふれ、これから20回くらい収穫できるであろう稲を栽培するとき、その中にときめきと楽しみを秘めたものが潜んでいるような気がします。

● 竹谷　良一さん

（仙台管区気象台天気相談所長）

仙台や盛岡にみる東北地方の気候変動の実態：IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告によれば、二酸化炭素の放出等人間活動を起源とする地球温暖化がすでに始まっているといわれています。 また、最新の予想を基に、21世紀後半に二酸化炭素の放出量が現在の2倍になると仮定すれば、地球の平均気温が現在より1℃～2℃上昇するといわれています。ここでは、東北地方或いは一都市の数十年後の気温を予想することはできませんが、これまでの観測事実を紹介することによって、東北地方の気候変動の傾向を理解して、今後の温暖化に対処する際の参考になれば幸いと思います。